

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770200309		
法人名	特定非営利活動法人 ひかり		
事業所名	グループホームひかり B棟		
所在地	石川県七尾市田鶴浜町る部88の1		
自己評価作成日	平成31年3月13日	評価結果市町村受理日	令和元年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	平成31年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成31年3月1日より受け入れ出来る入居者の数が3名増えました。それに伴い職員も各ユニットに固定にて配置する業務スタイルに変更になり、まだ職員も慣れておらず手探りの状態で日々業務を行っています。職員を固定して頂いたことで、より個別ケアに力を注げる体制が整いつつあると考えています。引き続き四季折々の行事や食事に気を配り季節の変化を感じて頂けることを第一に考え、また理念に掲げている「年老いて病んでも普段どおり暮らしませんか」を個々の生活に合わせて実践していけるよう支援を行っていきたくと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング・申し送り時に理念の掌握をし理念が生かせるような取り組みをしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開設当初より町内会に参加し地域行事(一斉清掃・資源回収・催し物)に参加している。事業所行事への地域の方の参加もあり、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1回ひかり通信を発行している。運営推進会議でも地域の方に認知症について理解していただく機会があり方針をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議をしている。地域の方、民生委員、行政担当者、包括、入居者様、管理者、職員の参加がある。現状報告を行い意見交換が出来利用者様も参加いただき話し合う機会となっている。理学療法士の先生にも参加頂く機会がありリハビリを実技して頂いた		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市町村との連携を図っている。毎月、入居者数の報告、入退去、待機者報告を行っている。事業所連絡会に参加し情報交換等行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回身体拘束等適正化委員会を開催している。ご家族様・ケアマネ・管理者・職員の参加があり、現在身体拘束は行っていない。言葉遣い、帰宅願望についても職員間で連携を取りながら身体拘束の無いように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束等適正化委員会や身体拘束に係る勉強会にて虐待について学ぶ機会を持ち、言葉遣いから不適切ケアにならないよう職員間で協力し支援を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用するにあたり該当する入居者の方はいないが職員室に市よりいただいたパンフレットをいつでも見られるようにしてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書や重要事項説明書に基づいて説明を行い疑問点を訪ね理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望が無いが面会時に相談を受け、緊急性の有無を判断し緊急性が無ければケアプランの更新時に良い改善が出来るよう支援を行っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	隔月ごとにスタッフミーティングと勉強会を交互に行い意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は週2回現場に入り職員の努力を見守り把握している。勤務状況を把握し疲労をためないように配慮している。年に1回は親睦会を開催。職員と交流している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加できる研修は順番に全員受けてもらうようにしている。スタッフ会議や勉強会にて研修内容を報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一回の事業者連絡会の分科会に参加し困難事例や成功事例等の情報交換をしている。講演会への参加もしておりサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族の許可を得てご本人に会う機会を作り現在の状況を把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に訪れた時ご本人の状況、家族の思い希望されていることを聞き取り信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様に入居前に見学して頂いている。出来るだけ希望に添えるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事はして頂いている。一緒にいる事で気遣ってもらうこともあり支え合う関係を築いていこうと努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって家族が一番大切である事を説明し情報交換をしご家族と一緒に支えて行けるよう努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の来訪者には次回の面会に繋がるよう行事の日時をお知らせし参加を出来るだけお願いし一緒に行動できるよう支援している。馴染のスーパーや理髪店を利用したり周辺のドライブを行ったりしながら関係が途切れない様にしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握しテーブルの位置を孤立しない様にしている。暴言が見られる場合には職員が間に入って対応。それ以外は割り込まずお互いの個性が発揮できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られる場合はご本人の状況や好みケアの工夫の情報を提供している。入院された場合お見舞いに行ったりご家族と話し合える機会を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや好きな事を理解できた時は職員間で情報交換している。困難な場合はご本人の日々の行動、表情、しぐさから読み取る様努力している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時はご本人ご家族にお話しを聞き、個人情報シートを作成。ケアマネ、ソーシャルワーカーから情報提供を頂きこれまでの生活歴を把握出来るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム(食事量・好み・排泄・睡眠)を把握できるよう記録しており、出来る事が見つかったら発揮できる場面を作っていくよう配慮している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決めて毎月個人日報にモニタリングを行っている。目標を記しカンファレンス時により良い生活が出来るようケアの内容を検討している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや会話を個人記録に残し、日々のケアに追加したり介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との連携体制を活かしてご本人やご家族が安心して生活できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議をきっかけに地域との関係が密になりボランティア、班長、町内会長、自主防災組織、市町と協力しながら行事や防火訓練も実施している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や総合病院との連携を密にし随時受診対応を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所より徒歩5分の所に自宅があり日常の気づき、変化をメールや連絡ノートにより相談。助言や指導を得て必要に応じて医療機関との連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が面会に行きご家族や医療機関と情報交換しながら退院支援に結びつけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はご家族、主治医と相談しながら対応している。また状態が変化することにご家族、主治医と密に情報交換を行いながら対応している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による勉強会、消防の指導による救命救急の講習会に参加。訓練は定期的に行っている。また玄関にはAEDが設置してあり緊急時に備えてある。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急マニュアルや連絡網は見える場所に置いてあり職員一人ひとりも持っている。事故時はそれに従い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	各入居者の主治医・専門医との連携が出来ており症状により他の機関にも紹介を実施している。介護施設等への支援体制は相談に乗る程度に留まっている		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	現在早出、遅出の日勤職員を新規に配置し夜勤職員の負担軽減に努めている。緊急時にはマニュアルに基づいて近隣職員及び看護師の応援にて対応している		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、地震水害訓練を消防署職員の指導の下行っている。近隣住民の方から個別に災害時は駆け付け可能との申し出もでている		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	各棟居間のベランダに非常階段を設置。階段は4段あり高齢者の方に適した高さになっておりリハビリも兼ね天気の良い時には昇降訓練もしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護についての勉強会を行い利用者のプライバシーや尊厳を損ねるような声掛けはしないよう話し合っている		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢の提案、意思表示が出来るように工夫、入居者の自己決定を大事にしたケアを行っている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩、ホーム周囲の山菜取り等を個別対応にて行い自己決定を大切にしたケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などが不足する場合ご家族に補充して頂いている。月に1度訪問美容の方が来られカットや毛染め等を利用できるように努めている		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご近所の方や利用者家族様よりいただいた野菜を皆で調理し職員も一緒に食べる事で食事を楽しんでいる		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量をチェックし摂取量が少ない利用者の方々には好物の物で水分補給を行っている		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、食前の嚥下体操を適宜行っている		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をもとに排泄間隔を見ながら声掛けを行いご本人の排泄のタイミングを重視している。必要度に応じて尿取りパットや紙パンツを選択し使用する事に対する抵抗感が少なくなるようご本人に寄り添った対応をしている		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や生活リハビリ等で体を動かす機会を設けたり食事や水分の摂取量に気をつけ自然排泄が出来るよう気をつけている。ご飯に棒寒天を入れ1日おきに提供している		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月・火・木・金と週4日入浴日を設けており入居者の方がいつでも入浴を楽しめるようにしている。変わり湯や音楽を聴きながらの入浴は継続している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前の生活パターン(就寝や起床時間)の情報を職員が共有しご本人にも確認しながら安眠、休息できるよう支援している。又眠れない時や起きられない時はバイタルチェックや見守りを実施している		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個人日報に開示しており随時チェックと確認を行なっている。薬剤変更時には全体日報と申し送りにて周知しその後の症状の変化の確認を記載している		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所されてから個々の楽しみや興味を観察、模索して担当者が情報を収集しケアプランに取り入れたりレクリエーションとして外出、外食を実施している		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬はドライブを中心に暖かい日は散歩の希望をお聞きしご本人の希望に添った支援を実施しています。他にスーパーへの買物支援、不穏時の急な外出にも臨機応変に対応しています。見守りの手が足りない時にはご家族や地域の方々をお願いしている		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は金銭を自己管理されていた方もいましたが、現在は全員ご家族様よりお小遣いをお預かりし事業所で責任を持って管理しており買い物の場所で希望の額をお渡し使っていた		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間帯に応じて適宜電話の希望はお聞きしている。入居者の方々に荷物が届くとご本人よりお礼の電話を入れていただいている。現在手紙の希望は聞かれず時節のはがきのやり取りのみ実施		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は全てバリアフリー、手摺も設置してある。居間も馴染のある畳や茶箆等を配置しており以前過ごされていた家庭の雰囲気に近い空間になるよう工夫している。トイレには暖房便座を配置し寒さに対応しておりまた居間にはロールカーテンを配置し採光や温度調節にも工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には各個人の椅子が配置されておりソファも2台設置し少人数でくつろいだり談笑出来るように配慮している。また脱衣場や玄関部分にも長椅子や椅子を配置してあり一人でゆったりと過ごせる空間になるよう工夫している		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れた物やこだわりのある寝具類、タンス、テレビ等を極力持参していただいています。また少しでも早く居室が居心地よい空間になるようにお部屋の温度調節もご本人に確認したりご家族に情報をいただいたりしながら配慮し支援している		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人で安全に独歩出来るよう手摺を設置してある。またトイレや脱衣場には縦型手摺も設置してあり立ち上がりや座位の保持に使用され安全と自立を図っている。また居間には滑りにくい畳を使用している。		